

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
麻生情報ビジネス 専門学校		昭和60年12月24日	竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-32 (電話) 092-415-2291		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999		
目的	機械や機器に組み込まれるソフトウェアを開発するエンジニアを育成する。プログラマーとして必要な基礎知識と、組み込みソフトウェア開発に必要な専門的な知識を中心に学習する。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
工業	工業専門課程		組み込みシステム科		平成21年文部科学 大臣告示第21号		-
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要 な総授業時数又は 総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3096	1624	1496	0	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
60人		28人		3人	3人		6人
学期制度	■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日			成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テストなどの総合評価		
長期休み	■夏期休業：8月6日から9月6日 ■冬期休業：12月25日から1月5日 ■春期休業：3月1日から4月10日			卒業・進級 条件	ア. 指定科目全ての修得 イ. 学年の出席率90% ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度		
生徒指導	■クラス担任制： 有 ■長期欠席者への指導等の対応 面談、保護者への電話連絡			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動： 有		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 情報サービス業 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 93.8 % ■その他 進学1名 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年4月1日 時点の情報)			主な資格・ 検定等	基本情報技術者試験 組み込みソフトウェア技術者試験グレード B		
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 ■中途退率 2.7 % 平成27年5月1日 在学者 37名 (平成27年4月 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 35名 (平成28年3月 卒業者をを含む) 転出 1名 ■中途退学の主な理由 他分野への進路変更 ■中退防止のための取組 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談						
ホームページ	URL: http://www.asojuku.ac.jp/abcc/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

専門性に関する動向や、地域産業振興の方向性などについて意見交換を行うことで、より実践的な職業教育の質を確保する事を目的とする。教育課程編成委員会で意見交換した内容や企業・団体からの要望などをカリキュラム会議にて精査し、次年度以降の授業実施科目、教科書教材の選定、および授業内容の創意工夫に反映させる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
馬場 伸一	NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム 事務局長
芦原 秀一	株式会社ネットワーク応用技術研究所 取締役
小畑 昌之	安川情報システム株式会社 ソフトウェア研究開発センター 課長
竹口 伸一郎	麻生情報ビジネス専門学校 校長
荒木 俊弘	麻生情報ビジネス専門学校 校長代行
山下 文夫	麻生情報ビジネス専門学校 サブリーダ

(開催日時)

平成27年度 第1回 平成27年7月3日 19:00～19:40
平成27年度 第2回 平成27年11月6日 16:00～17:30
平成28年度 第1回 平成28年7月1日 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

基礎知識を体系的に学習した学生に対して、実践能力を向上させる目的で研究テーマの選定や技術指導など、演習科目を中心に企業等と連携した授業を実施する。実践的な技術指導を受けるだけでなく、技術者と直接コミュニケーションの機会を多く持つように運用する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業研究B	その時の流行のIT技術をテーマに選定し調査を行い、システムの設計・実装を行う。また学んだ技術の集大成としてシステムを構築する。企業の意見を反映してテーマを検討し、中間レビューや成果発表などで企業の評価をもらうことで実践力を育成する。	NPO法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。また、教育課程編成委員会などの意見を元に作成したカリキュラムを運用するために必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
中島 みえ子	保護者 情報工学科在校生 保護者
中園 晴久	卒業生 平成6年度情報経理科 卒業生
浦川 美代子	自治会長 博多駅南1丁目1区 自治会長
大山 明	高等学校 久留米市立南筑高等学校 校長
杉野 知大	社団法人福岡県情報サービス産業協会 企画調査委員会 副委員長
牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会 企画調査委員会 副委員長
荒井 秀和	Training Center Japan 事務局長
馬場 伸一	NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム 事務局長

堀 浩信	福岡市経済観光文化局 国際経済コンテンツ部コンテンツ振興課 課長
伊藤 寛通	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部教育推進グループセクションチーフ
長沢 昭彦	一般社団法人 日本経営協会 九州本部長
高岡 宏光	三井情報株式会社 西日本営業部 西日本営業第三室 室長
戸倉 彩	日本マイクロソフト株式会社 テクニカルエバンジェリスト
岡部 浩太郎	SCSK九州株式会社 営業部 部長
竹末 雅輝	株式会社システナ 福岡開発センター センター長
芦原 秀一	株式会社ネットワーク応用技術研究所 取締役
小畑 昌之	安川情報システム株式会社 ソフトウェア研究開発センター 課長
金丸 浩二	グローバルブレインズ株式会社 第1システム本部 部長
白根澤 信孝	ユニアデックス株式会社 システムサービス二部 部長
松尾 昌弘	株式会社システムオーディット 代表取締役社長
宮崎 太一郎	株式会社サイバーコネクトツー 取締役副社長
今治 智隆	株式会社ヴァイス 代表取締役
須貝 克俊	九州アニメーション株式会社 代表取締役
矢野 修作	株式会社ディーゼロ 代表取締役
田上 喬	株式会社ハッピープロジェクト コンテンツ事業部 部長
大久保 英昭	看公税理士法人 黒岩公認会計士事務所 所長代理
小林 憲一	小林憲一税理士事務所 所長
岩永 茂敏	リコージャパン株式会社 九州事業本部 九州支社 MA事業部 公共担当室 室長
沖田 敏治	株式会社アイスリーラボ 代表取締役
菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム マーケティング営業戦略部 次長
下部 貴志	株式会社Flourish 総務部 部長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/hyoka_abcc.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.asojuku.ac.jp> <http://www.asojuku.ac.jp/abcc>

授業科目等の概要

(工業専門課程 組込みシステム科)平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アルゴリズム A	基本構造、変数、配列など、アルゴリズムとデータ構造の基本を学ぶ。	1 前	60		○			○		○		
○			アルゴリズム B	擬似言語表記による処理の流れを学ぶ。	1 後	30		○			○		○		
○			組込みソフト ウェア技術A	組込み技術スキル標準のエントリーレベルに要求される知識を学ぶ。	1 前	60		○			○		○		
○			組込みソフト ウェア技術B	組込みシステムに関する基礎知識をベースにしてハードウェア、ソフトウェアの応用知識を学ぶ。	1 後	90		○			○		○		
○			コンピュータ 基礎理論	2進数表現など、コンピュータの基礎知識を学ぶ。	1 前	60		○			○			○	
○			ハードウェア ／ソフトウェア	ハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を体系的に学ぶ。	1 前	60		○			○			○	
○			ネットワーク	ネットワーク技術の基礎知識を学ぶ。	1 後	30		○			○			○	
○			自動車構造入 門	自動車の基本的な仕組みと使用される部品名称を学ぶ。	1 後	30		○			○		○		
○			情報処理試験 集中講義	春期情報処理試験対策を行なう。	1 後	60		○			○		○		
○			プログラミン グ演習Ⅰ	組込みシステムの開発に必須であるC言語の文法の理解と主な関数の使用方法を、実習を通じて学習する。	1 前	150			○		○		○		
○			マイコン演習 Ⅰ	マイコンボードによる入出力、タイマ、割り込みなど基本的な制御をC言語による実装演習を通して学ぶ。	1 後	150			○		○		○		

○		制御ソフトウェア演習 I A	組込みシステムの動作の基本となる入力、処理、出力について車型ロボットを使用しアイコン型プログラミングを通じて学ぶ。	1 前	30				○	○	○							
○		制御ソフトウェア演習 I B	組込みシステムの動作の基本となる入力、処理、出力について車型ロボットを使用しC言語プログラミングを通じて学ぶ。	1 後	60				○	○	○							
○		サーバ入門	基本的なコマンド操作・開発環境の構築方法を学び、Linuxを利用した開発構築の基礎知識を学習する。	1 後	30				○	○	○							
○		一般教養 I A	基本的な数学を学ぶ。	1 前	30				○	○								○
○		一般教養 I B	基本的な国語を学ぶ。	1 後	30				○	○								○
○		G C B I	グローバルで活躍できる人材を目指し、感謝と志というテーマを中心に学習する。	1 前	16				○	○	○							
○		ビジネスソフトウェア演習 I A	Windowsの基本操作とMicrosoft Excelの使用方法を学ぶ。	1 前	30				○	○								○
○		ビジネスソフトウェア演習 I B	Windowsの基本操作とMicrosoft Word、Microsoft PowerPointの使用方法を学ぶ。	1 後	30				○	○								○
○		車載ソフトウェア概論	自動車に組み込まれているEUCや車載ネットワークの基礎について学ぶ。	2 前	28				○	○	○							
○		制御理論	機器制御の基礎となるフィードバック制御。その中でも古典的であるが基礎的な制御方法であるPID制御に焦点を当て、制御の仕組みを学習する。	2 前	28				○	○	○							
○		分析・設計モデリング	組込みシステム開発の設計段階における設計手法を学ぶ。対象製品をハード／ソフトの構造物として捉えて分析しUMLを使って図として表現する。	2 前	28				○	○	○							
○		電子回路	組込みソフトウェア開発者に必要な電子回路（電圧、電流、抵抗、ダイオード、コンデンサなど）の基本技術を習得する。	2 前	56				○	○								○
○		センサー／アクチュエータ	組込み製品に使用されている代表的なセンサーやアクチュエータの知識を習得する。	2 後	30				○	○	○							
○		情報処理試験春期対策 II A（選択必須）	春期情報処理試験対策を行なう。	2 前	48				○	○	○							

○		テスト技法	ソフトウェアテストにおける基本的な理論を学ぶ。テスト技法を用いた欠陥の検出方法を習得する。	3前	48		○			○			○					
○		情報処理試験 春期対策ⅢA (選択)	春期情報処理試験対策を行なう。	3前	48		○			○			○					
○		情報処理試験 秋期対策ⅢA (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう。	3前	32		○			○			○					
○		情報処理試験 秋期対策ⅢB (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう。	3後	50		○			○			○					
○		情報処理試験 春期対策ⅢB (選択)	春期情報処理試験対策を行なう。	3後	24		○			○			○					
○		マイコン演習 ⅢA	小型マイコンとセンサーを組み合わせたハードウェアで動作する制御プログラムを開発する。	3前	140					○			○					
○		マイコン演習 ⅢB	小型マイコンとセンサーとインターネット通信を組み合わせたシステムを開発する。	3後	120					○			○					
○		プログラミング演習Ⅱ	C++言語の文法とオブジェクト指向プログラミングの基礎を学習する。	3前	112					○			○					
○		組込み応用技術A	画像認識技術の基礎を学ぶ。組込みの現場において重要な技術項目を取り上げ、マシン実習を通して技術的な理解を深める構成で行う。	3前	56		○						○					
○		組込み応用技術B	画像認識技術の応用を学ぶ。自然画像および動画を対象に、マシン実習を通して技術的な理解を深める構成で行う。	3後	60		○						○					
○		組込み開発言語A	Webプログラミング及びスクリプトプログラミングの一つと位置づけられるRubyを習得する。	3前	56		○						○					
○		組込み開発言語B	Rubyを組込みソフトウェア用に改良した軽量Ruby (mruby) の実装技術を習得する。	3後	60		○						○					
○		卒業研究A	研究・開発テーマの企画を立案する。	3前	28					○			○					
○		卒業研究B	研究・開発テーマに基づくシステムの設計・実装・テスト、及び作業の振り返り、評価を行う。	3後	180					○			○				○	○

○		ビジネスマナー	ビジネスマナーの習得および、オフィスでの状況対応能力を身につける。	3 後	30	○			○				○
○		就職実務Ⅱ	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う。	3 前	28	○			○			○	
合計					54科目	3096単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 ・卒業基準検定を取得していること。 ・学年の出席率が90%以上であること。 ・学生としてふさわしい生活態度であること。 	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。